

☆妄想ノート～奴隷を
夢見る女の子 soft
t

みさお

男の人みたいで夜中まで働いて出世なんてしたくないし、選挙権だつてせつかくの休日時間にとられるだけ。

結婚しても、昔みたいに専業主婦にはなかなかないって言うし。

形ばかりの男女平等なんて要らない。いっそ男尊女卑の方が女にとつて幸せなのかもつて思う。

そういえば、メイド喫茶のバイトで「ご主人さま」つて初めて言ったとき、恥ずかしかつたけど、なんだかドキドキした。

素敵な彼氏をご主人さまつて呼んで彼好みに躡られたり、奴隷のように日な命令をされてみたらどんなだろう。

・ ・ ・ そんな妄想を書き連ねてみた。

☆☆

【ミサオ】

主人公、通称ミサちゃん、一人称：あたし、ご主人さまの妻

【ミオ】

主人公の学生時代の先輩、通称ミオさん、一人称：私

【ご主人さま】

主人公の夫、名前は出てきません。

目次

結婚式

1

奴隷は女のしあわせ？

5

結婚式

☆☆

女の痛みは男の喜び　女の苦しみは男の楽しみ　女は泣いて男は笑う　女っ

てなんて屈辱的なのだ。でも・・・なぜか不思議と嬉しさがこみ上げてくるの・・・

今の男女平等なんて形ばかり。

女にとってなんの意味もないと思う。

男の人みたいに夜中まで働いて出世なんてしたくないし、選挙権だつてせつかくの休日

に時間をとられるだけ。結婚しても、昔みたいに専業主婦にはなかなかないって言うし。

形ばかりの男女平等なんて要らない。いつそ男尊女卑の方が女にとって幸せなのかもって思う。

そういえば、メイド喫茶のバイトで「ご主人さま」って初めて言ったとき、恥ずかし

かったけど、なんだかドキドキした。

素敵な彼氏をご主人さまって呼んで彼好みに躡られたり、奴隷のように日な命令をさ
れてみたらどんなだろう。

・・・そんな妄想を書き連ねてみた。

☆☆

【ミサオ】

主人公、通称ミサちゃん、一人称：あたし、ご主人さまの妻

【ミオ】

主人公の学生時代の先輩、通称ミオさん、一人称：私

【ご主人さま】

主人公の夫、名前は出てきません。

☆☆

※オムニバス形式の小説ですので、お好きな章からお読みください。

☆☆

「汝はこの者を夫として迎え、病める時も健やかなる時も、夫を愛し、貞節を守り、よく

従うことを誓いますか？」

「はい、誓います」

あたしは彼の足元にひざまずきます。

ヒヤリ。

首筋に冷たい金属の感触。

彼が、あたしに結婚首輪をつけたのです。

「カチリ」

首の後ろで鍵がかかる小さな音。

あたしは一生この音を忘れないでしょう。

立ち上がって誓いのキス。

万雷の拍手。

二人は仲睦まじく腕を組んで建物の外へ。

そして、広場でお姫様抱っこされてブーケトス。

あたしは指先にそっとキスして、その指を首輪に押し付けました。

銀色に輝く愛のしるし。

あたし、本当に彼のものになったんだわ。

愛しています、ご主人さま。

【結婚首輪】

結婚した女性がつける首輪です。通常は結婚式で愛と貞節を誓った後、ご主人さまに着けてもらいます。

表側には愛称が刻印され（主人公の名前はミサオですが、愛称がミサですので「M i s a」と刻印されています）、裏側には、「I b e l o n g t o m y m a s t e r」と刻印されています。

奴隸は女のしあわせ？

「ふつつかものですが、よろしくお願いします」

三つ指ついてご挨拶。

突然、彼はあたしを肩にのせると、そのまま寝室に運ぼうとする。

「こんな荷物みたいな運び方イヤ！ちゃんとお姫様抱っこしてください」

あたしが彼の背中を叩きながら抗議すると、

「生意気言な女だな」

彼は、あたしのお尻をぶって無造作にベットに放り投げる。

もう、酷い！

でもベットでは一転、彼のとろけるようなやさしい愛撫。

「ああつん、もう。あなたは女の扱いを良く知っているわ」

「静かにしろ！」

あたしは素直に口を閉じる。だって女の子は素直が一番だもん。

そして暗闇の中で聞こえるのは、あたしの小さな喘ぎ声だけ。

翌朝、目を覚ますと、あたしは急になんだか嬉しさと悲しさがなймаぜになって、彼

の胸に顔をうずめる。

泣きじやくるあたしの頭を、彼はやさしくなでた後、あごに手を添えてキスしてくれた。

「お前は俺のものだ」

「はい、あたしはご主人さまのものです」

この時、初めてあたしは彼のことを『ご主人さま』って、自然に呼ぶことができました。

ご主人さま、ご主人さま、ご主人さま。

なんて素敵な響きでしょう。

彼は男で、あたしは女。

オンナ、オンナ、オンナ。

あたしは生まれて初めて女であることが嫌でなくなりました。それどころか、自分が女であることが嬉しくて堪りません。

オンナ、オンナ、オンナ。

彼は男で、あたしは女。

彼はご主人さまで、あたしは彼のもの、彼の奴隷なんだわ。

ドレイ、ドレイ、ドレイ。愛の奴隷だわ。

『奴隷は女の幸せ』つていう古い諺がふと頭に浮かびました。なんて女を馬鹿にした嫌な諺だろうつて思つてたけど、女の本質をよく表しているわ。女は奴隷になつて初めて本当の女になるんだわ。女は奴隷になつて初めて初めて本当の幸せを知るんだわ。

奴隷でない女つて可哀そう、だつてまだ本当の女の喜びを知らないんだもの。

男の人つて可哀そう。だつて男の人は決して知ることがないんだもの。

そう思うと、なんだか男の人が可愛く思えてきました。

男の人つて、すぐ女を見下したり蔑んだりするけど、もうそんなの気にならないわ。

それに、男の人に馬鹿にされり、からかわれたりしても、男の人に構つてもらつて何だか嬉しい。

そういえば、子供のころ男の子にスカートめくりされた時、とつても恥ずかしかつたけど、なんだかどきどきしたことを思い出しました。他にも階段を昇つてゐる時、下からスカートの中を覗かれたり、海で水着をチラチラ見られた時なんかも・・・

あれつて嬉しかつたんだわ。

男の人つてとつてもHだけと、本当は女の方が嫌らしいのかも・・・